

2024年度 安田女子高等学校入学試験（一般）

1 国 語

*** 開始の合図があるまで、開いてはいけません ***

試験が始まるまで、下の〔注意事項〕を読んでおいてください。

〔注意事項〕

- ・ 問題用紙のページは13ページまでです。解答用紙が1枚あります。
 - ・ 解答はすべて解答用紙に記入してください。
 - ・ 試験時間は、50分です。
 - ・ 印刷の見えにくい場合やページがぬけている場合は知らせてください。
- そのほかの場合は、質問を受けません。
- ・ 必要なものは、えんぴつ、消しゴムです。

中学一年生の晴美のクラスでは、合唱コンクールを二週間後に控えています。そこで、晴美の提案で朝練を始めることになりました。次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。なお、句読点は全て一字に数えます。

晴美は、すでに曲は終わっているのに、まだ音楽が流れているような気がしていた。音楽が自分の体の中で たゆた^aっているのだろうか。それともクラスの空気の中でなのか。きらめく余韻の微粒子が、そこここに タダヨ^Aっている感じだった。

もっとひたっていたかったのに、*1^{がく}岳の登場で余韻は蹴散らかされた。相変わらず岳は、前向きな 雰囲気^Bをぶちこわす奴だ^{やつ}。

高揚感から一気に弛緩^{しかん}した空気に変わり、いったん後ろに下げた机をもとに戻そうと、机を引きずる生徒も出始めた。せっかく、初めて合唱らしい合唱になったのに、こんなふうにしまりなく、ずると練習が終わるのは良くない。

指揮者の早紀^{さき}は、終わりの挨拶をするでもなく、明日のことを言うでもなく、ただその場に突っ立って、困ったように目を泳がせている。

晴美はサッと早紀の横に出て、声を張り上げた。

「みんな、朝練初日、お疲れ様でした。明日もやるから、また頑張ろうね！」

「*2 キンタ、了解」

他にもはいとか、おうとか、ポジティブな返事がそこかしこから聞こえた。1晴美が早紀を見ると、ホッとしたように微笑^{ほほえ}んでいる。なんだかイラッとした。

自分も机を戻そうと動きかけた早紀を、晴美は呼び止めた。

「ねえ、水野さん」

「はい」

ついきつめの口調になってしまったのか、早紀は気をつけの姿勢をしている。

「水野さんは指揮者なんだからさ。練習の始めとか終わりとか、もう少し仕切ってほしいんだよね」

「う、うん」

早紀はうつむき加減になって、晴美を上目づかいで見上げた。

「涼万^{りやうま}がまともに歌ってくれたおかげで、せっかくいい感じに盛り上がってきたんだからさ。今日はわたしが仕切ったけど、頼られてばかりでも困るし。指揮者なんだから、みんなをまとめない」と

そんな言い方をする、早紀がますます萎縮^{いしゆく}していくのは分かっているのに、Cナゴやかに伝えなきゃと思っているのに、晴美の口から飛び出した言葉は想定外につんけんしていた。上目づかいだった早紀の目が、スローモーションで下に落ちていく。

「ごめんなさい」

早紀はしおれた案山子^{かかし}みたいに、肩を落とした。これではまるで晴美が早紀に説教をたれているか、いじめているみたいに見える。「説教^bは あながち間違っ**て**はいないけれども」。

晴美がちらちらと周囲をうかがうと、こちらを Dチユウシしている涼万に気づいた。晴美はやや cうろたえた。

さっき合唱が終わったとき、晴美はまっさきに最後列にいる涼万を振り返った。あのときも涼万の目線は早紀に注がれ、何やらジェスチャーで会話しているようだった。心に小さくひっかかっていた、その光景が思い出された。

「ちよ、ちよつと、あやまらないですよ。ま、わたしも、もちろんクラスを盛り上げていくけどさ。水野さんも頑張つてことだよ」と、すかさずフォローにまわった。早紀は決意するように下くちびるをかむと、まっすぐ晴美を見つめた。目の奥に力が宿っている。

「うん、分かった。ありがとう」

離れていく早紀の華奢な後ろ姿を見ながら、小首をかしげた。

あの子、おとなしすぎると思っていたけど、² そうでもないのかな。ま、指揮をするのは、確かにうまいけど。でもなあ……。

晴美は指揮者を決めたときのことを思い出して、くちびるを突き出した。あごに梅干しみたいなしわが寄る。【A】

本当は自分が指揮をしたかったのだ。みんなの前に立って指揮棒を振りたかった。目立ちたがり屋な^E 性分の、格好の役目だ。適役だとも思う。そう、かなり真面目にやりたかったのだ。

あれは、夏休みに入る前の音楽の授業のときだった。合唱コンクールの自由曲を決めるのと同時に、指揮者、伴奏者も選ぶことになった。伴奏者は音心^{そころ}だけが立候補してすんなり決まったが、指揮者は誰も手を挙げなかった。

音楽の宮下先生が教卓を指でつつきながら、

「誰か指揮者やってみたっていう人はいないの？」

とクラスを見わたした。反応がない。

晴美の席は一番前だった。脈がとんとん速く打つのが分かる。手を挙げればすむことなのに、挙げられない。ふだんの晴美なら、考えるより先に行動しているのだが。【B】

よりによって一番前の席だから、後ろの様子が分からない。躊躇^{ちゅうちょ}しているうちに、他の誰かが手を挙げてしまうのではないかと、気がでなかった。誰かひとりでも立候補すれば、すんなり決まっ

しまうに違いない。

晴美は思い切つて後ろを振り向き、ぐるりと様子を見わたした。みんな先生と目を合わさないように、ややうつむき加減なのが分かる。

「困ったわねえ」

宮下先生の「困った」は、クラスのことを考えてというよりは、さつさと決めて授業を進めたいのに、という気持ちににじみ出た。休みが多いから、今日は猛スピードで授業を進めたいのだろう。

「やる気があればいいのよ。やる気が」

宮下先生の投げやりな言葉は、かえって晴美を勇気づけた。

やる気があればいいんだ。それなら出来る！【C】

晴美は腕を机から浮かした。自分の腕なのに、鉛みたいに重たかった。そのとき、

「先生、さすがにやる気だけじゃまずいと思います。音楽性がないと」

音心が珍しく発言した。鉛の腕は簡単に机に着地した。

「ま、そうよね。じゃ、どうしょ。んー。このクラスで吹奏楽部の人っていたっけ？」

³ まずい展開になってきた。晴美は両こぶしを握った。

どうして、音楽性イコール^{*3} 吹部になっちゃうわけ？ 確かにうちの中学にはコーラス部がなくて、音楽系の部活つていえば吹部だけけど。部活だけで決めるっていうのはどうよ？

不満がぐるぐると頭をかけめぐる。

晴美、いいから早く手を挙げろ。今ならまだ間に合う！

脳は命令しているのに、音心の言った「音楽性」がまるでどこかの神経にひっかかってしまったみたいに、鉛の腕は持ち上がらない。やりたいことをやりたいと言えない自分。こんな⁴ ありえない自

分に会うのは初めてだ。【D】

「ただ、音楽性なんて言われちゃうと……。」

「あれ、吹部って井川くんだけ？ 井川くんは伴奏者だし、困ったな」

宮下先生がまたぼやいた。すると、

「はい」

か細くて透明な声の矢が、晴美の背中に突き刺さった。

「ああ、水野さん。吹部だったわね。あなた、指揮やってくれない？ 出来るでしょ？」

5 宮下先生がぐいぐい攻めていく。しばらく間があいた。晴美は

《注》

*1 岳 …… 晴美の幼なじみ。後出の「早紀」「涼万」「音心」は晴美のクラスメイト。

*2 キンタ …… 晴美のあだな。

*3 吹部 …… 吹奏楽部のこと。

問一 波線部 A 「タダヨって」 B 「雰囲気」 C 「ナゴやかに」 D 「チュウシ」 E 「性分」について、カタカナは漢字を、漢字は読みをひらがなでそれぞれ答えなさい。

問二 二重傍線部 a 「たゆたっている」 b 「あながち」 c 「うろたえた」の本文中における意味として最も適当なものをそれぞれ次の中から一つずつ選び、記号で答えなさい。

a 「たゆたっている」	b 「あながち」	c 「うろたえた」
ア 輝いている	ア 少し	ア あわてた
イ 揺れ動いている	イ 絶対に	イ 腹を立てた
ウ 吸いとられている	ウ 必ずしも	ウ 悲しくなった
エ 生まれている	エ とりあえず	エ 気まづくなった

机の上で両手を握り合わせた。

出来ないって言って。無理って言って。

祈るような気持ちで念力を送った。

「……はい」

早紀の言葉に、宮下先生だけでなく、クラス中に安堵あんどの空気が流れた。晴美だけが、早紀の声の矢のせいなのか、
6 胸むねに開いてしま
った小さな穴がしくつと痛んだ。【E】

（佐藤いつ子『ソノリテイ はじまりのうた』）

問三 傍線部 1 「晴美が早紀を見ると、ホッとしたように微笑んでいる。なんだかイラッとした」とあるが、このときの晴美の気持ちを、次のように説明しました。字数に合わせて空欄に言葉を補いなさい。

I (三字)

という立場なのに、

II (五字以上十字以内)

ないで

III (五字以上十字以内)

している早紀に対して苛立ちを感じている。

問四 傍線部 2 「それでもないのかな」とあるが、晴美がこのように思ったのはなぜですか。その説明として最も適当なものを次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 「みんなをまとめないと」と晴美に言われ、下くちびるをかむ早紀の姿に、自分に対する強い反発を感じたから。
イ 「わたしも、もちろんクラスを盛り上げていく」と言う晴美をにらんだ早紀に、負けず嫌いな一面を感じたから。
ウ 「水野さんも頑張ってる」という晴美をまっすぐ見つけて「分かった」と答えた早紀から、強い決意を感じたから。
エ 「頑張ってるってことだよ」とごまかす晴美のずるさについて何も言わない早紀に、プライドの高さを感じたから。

問五 傍線部 3 「まずい展開」とあるが、(1) のようなことが (2) なぜ「まずい」のですか。それぞれ十五字以上二十五字以内で説明しなさい。

問六 傍線部 4 「ありえない自分」とあるが、「ありえない自分」を身体の一部を用いてどのように表現していますか。本文中から三字で抜き出さなさい。

問七 傍線部 5 「宮下先生がぐいぐい攻めていく」とあるが、ここから分かる宮下先生の気持ちとして最も適当なものを次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 吹奏楽部で音楽性もある水野早紀が、指揮者に立候補したことに興奮する気持ち。
イ 音楽性はないが吹奏楽部に所属する水野早紀に指揮者をしてほしいという気持ち。
ウ 吹奏楽部で指揮者を務めている水野早紀に指揮者を任せれば安心だという気持ち。
エ はやく授業を進めるために、水野早紀を指揮者に決めてしまいたいという気持ち。

問八 次の文章は、本文中の【A】と【E】のどこに入りますか。最も適当な箇所を記号で答えなさい。

理由は明白。

晴美はオンチだったのだ。

保育園の学芸会のときに、六歳年の離れたお兄ちゃんに言われたひとことが、実は今でもトラウマになっている。演目のひとつに合唱があった。学芸会の帰り道、お母さんが合唱をほめてくれると、お兄ちゃんが笑いながら言った。

「晴美、お前ってめっちゃ声でかいから、すぐ分かったぞ」
ここまでは良かったのだが、

「ひとりだけアルト歌ってたのか？」

と茶々を入れてきた。

「アルトってなあに？」

「低い音」

「ん？」

晴美が首をひねると、お兄ちゃんは調子に乗った。

「晴美、音ずーれずれ。そういうの、オンチって言うんだぞ」

すると、まわりにいた園児たちがオンチの意味は分らないが、ウンチと似た言い回しが面白かったのか、

「オンチ、オンチー」

とはやしたてた。晴美はわっと泣き出した。そのあと、お兄ちゃんはお母さんにこっぴどくしかられたが、園ではしばらくオンチとからかわれ続けた。

保育園からの幼なじみは今でも何人かいるけれど、もうそんなことは誰も覚えていないだろう。小学校に上がってからこのかた、いつも結構気をつけて歌ってきた。

家族でカラオケに行くと、お兄ちゃんがにまにま笑っているときがあるけれど、学校ではオンチと言われたことはない。だから、だいじょうぶなはず。

問九 傍線部 6 「胸に開いてしまった小さな穴がしくつと痛んだ」とあるが、この部分について先生と生徒たちが話をしています。

この会話を読んで、1 4 にあてはまる言葉として最も適当なものをそれぞれ次の中から一つずつ選び、記号で答えなさい。

先生… 「胸に開いてしまった穴」が痛むとはどういうことでしょうか？

生徒A… 晴美は、「早紀の声の矢のせいなのか」と言っているので、胸が痛いのは早紀の言動が理由だと思います。

「早紀の声」を「矢」にたとえているので、鋭さを感じます。

早紀が指揮者をする返事をして、指揮者が決まってしまったので胸に穴が開いたのです。

だから、その穴が痛むのは、1「1」ということだと思います。

生徒B… うーん、私は、晴美は、早紀が指揮者をする返事をしてもしなくても、2「2」のではないかと思います。

生徒A… どうしてそう考えたのですか？

生徒B… 晴美は、ずっと迷っていて、立候補したいと思いながら、立候補する勇気が出ていません。

だから「指揮者が決まってしまったこと」ではなくて、2「2自分」のせいで胸が痛むのだと思います。

これまで自信に満たされていた自分の中に、3「3自分」が存在し始めたんです。

生徒A… なるほど。確かに、それは自分の中に穴が開いた感じがしますね。

生徒B… はい。だから、私は、その穴が痛むのは、4「4」ためだと思います。

ア 自分の弱さに気づいた

イ 目立つことができなかった

ウ 立候補することができなかった

エ やりたいことをやりたいと言えない

オ 立候補しなかったことを後悔している

次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。なお、句読点は全て一字に数えます。

結局、大人になるとはどういうことなのでしょう。すでに色々述べてきましたが、一八歳という年齢を意識しつつ、ここで改めてその本質について考えてみたいと思います。大人になるとは、年齢や身体的な成長だけでなく、精神的な成熟を含むとしたら、一八歳でも精神的成熟が可能だということになります。

逆にいうと、大人として求められる精神的な成熟とは、一八年も生きていれば身につけることができるということです。いや、¹その程度の成熟で足りるといった方が正確でしょうか。なぜなら、多くの人は一八歳で精神的に成熟するなんて無理だと思われるはずだからです。

みなさんがまだ一八歳に達していない年齢なら当然、そんなこと想像もできないでしょう。あるいは、一八歳以上の人にとってもそうです。たとえば私は五一歳ですが、まだ自分が精神的に成熟しているなどとは思えません。

これは私だけが謙虚なのではなくて、誰に聞いてもそんなふうに答えます。試しに周りの大人、というか一八歳よりも年齢が上の人に聞いてみてください。驚くことに、これは七〇歳であろうと九〇歳であろうと、実は何歳になっても ² そう答えるものなのです。

かつて私も、人生の節目節目で、常に自分がまだ精神的に成熟していないこと、そして早く成熟しなければならぬということを感じ続けてきました。成年に達した時、社会に出て働き始めた時、結婚を前にした時、教師になった時、役職が上がっていくにつれて……。

「**A**」まだまだだと感じてしまうのです。

それでは誰も精神的成熟を達成し得ないのかというと、そうではありません。本当はどこかの時点で成熟しているのですが、自分では ³ そうとは気づかないものなのです。人からいわれても、まだ信じられないでしょう。それほど精神的成熟というものはわかりにくいものなのです。

そのわかりにくさの理由は、定義ではなく、その ⁴ 不安定性にあります。精神的成熟の定義自体はそんなに難しいものではなくて、誰もが「あの人は精神的に成熟している」と感じるようなように、割とわかりやすいものです。

わかりやすい表現をすると、「あの人、大人だなあ」という言葉になるでしょうか。これは他者に配慮できる人だとか、世の中全体のことを考えている人、怒りを抑えることができる人などに対して使うと思います。

A そういうことができる人が精神的に成熟しているわけです。イ
かに子どもはわがままで、世の中のこともなんて考えておらず、感情に
任せて怒ったりするものです。ウ そんなことなら一八歳でもなんとか
なりそうですし、ましてや五〇歳も過ぎれば身につけていそうですよ
ね。

⁵ 本当にそうでしょうか？ **E** 胸に手を当てて考えてみるとわかるの
ですが、何歳であつてもこれができないこともあるのです。私だつて
わがままになることがありますし、世の中なんてどうでもいいと思う

こともあります。感情的になるのは ^a 日常茶飯事です。毎日ではありませんが。

いかがでしょうか？ 大人と称される人も、時には子どものような振る舞いや考え方をしてしまうことがあるということです。これが先ほど書いた不安定性です。つまり、人間というのは、精神的に成熟したとしても、時に未成熟になつてしまう。その不安定性ゆえに、私たちはいつまでも大人になったと自覚することができないでいるのです。

だから一八歳でも大人になれるけれど、常にそうでいられるわけではないということです。だから私たちは常に意識しておかなければならないのです。大人になること、そして大人としてふるまうべきことを。

私たちが不安定にさせる原因はいったい何なんでしょうか？ まず思い浮かぶのは感情だと思います。人間には感情があります。だから時に怒ってしまったたり、落ち込んだりするわけです。それは自然なことでもあるので、ある程度は問題ないでしょう。でも、程度を超える、大人の名称を返上しなければならぬ事態にもなりかねません。では、どうすれば感情をコントロールできるのか。それは社会とうまく距離をとることだと思います。私たちの感情を刺激するのは、私たちの外部にある要因です。たとえば皆さんはどんな時に怒りますか？ 人からバカにされた時？ 学校がおかしな校則を押し付けてきた時？

それらはいずれも社会からの影響と表現することができるとでしょう。私たちは常に誰か別の人たちと一緒に暮らし、その人たちとの関係の中で様々なことをしています。そういう関係性を社会と呼ぶので

す。「**B**」、人間は社会的動物なのです。これは古代ギリシアの哲学者アリストテレスの言葉としても知られています。彼は「⁶人間はポリスの動物だ」といいました。

ポリスというのは、古代ギリシアの都市国家のことです。つまり社会だと思ってもらっていいでしょう。アリストテレスがいわんとしたのは、人間は社会の中でお互いに依存し合って生きていかざるを得ない存在だということです。それが他の動物とは違う点です。他の動物の場合、群れをなしているものもあれば、そうでない一匹オオカミ的なものもあります。それに群れをなしていても別に人間ほど複雑高度な **7** 関係を構築しているわけでもありません。

人間の場合、その高度な **7** 関係のおかげで一人ではできないことをし、助け合い、高度な文明を築き上げることができたわけですが、そのせいで過度に人間関係が複雑になってしまったという負の側面もあります。

高度な **7** 関係は、自分次第でどうにもならないことが増えるということでもあります。そうなると、他人次第の部分が出てきて、自分の思い通りにならないと腹が立つのです。あるいは落ち込むのです。それが原因で精神の成熟が不安定になってしまふというわけです。

だから感情をコントロールして、できるだけ安定した状態にいるためには、他者との距離をうまくとり続ける必要があるのです。それが私のいう社会との距離をうまくとるということの意味です。誰かと、あるいは集団とぎくしゃくしたなと思つたら、少し距離をとって冷静になつてみる。そういうことがうまくできる人が大人なのです。

人間は基本的に個々人がバラバラの存在です。でも、一人ひとりとは弱い存在なので、他者と力を合わせてより善く生きて行こうとします。

この塩梅あんばいはとても難しく、だからといって常にみんなといればいいかというとそうでもないのです。一人でいる時と、みんなでいる時のバランスをうまくとりながら、時にくつつき、時に離れ、それを繰り返すことが求められます。子どもの時はいつもみんなといたいと

思いがちです。でも、だんだん独立していく。それでいて、必要に応じてうまく一緒に行動する。それが大人の生き方だと思うのです。
(小川 仁志『中高生のための哲学入門―「大人」になる君へ―』)

問一 二重傍線部 a 「日常茶飯事」 b 「塩梅」の本文中における意味として最も適当なものをそれぞれ次の中から一つずつ選び、記号で答えなさい。

a 「日常茶飯事」

b 「塩梅」あんばい

- | | | | |
|---|------------|---|-----------|
| ア | 人間の本能ですること | ア | きつかけのつかみ方 |
| イ | 避けられないこと | イ | 物事のほどあい |
| ウ | あたりまえのこと | ウ | 行動の基準 |
| エ | ありふれたこと | エ | 協力の方法 |

問二 空欄「 A 」 「 B 」にあてはまる言葉として最も適当なものをそれぞれ次の中から一つずつ選び、記号で答えなさい。

- | | | | | | | | |
|---|-----|---|------|---|----|---|------|
| ア | つまり | イ | そのうえ | ウ | でも | エ | ところで |
|---|-----|---|------|---|----|---|------|

問三 傍線部 1 「その程度の成熟で足りる」とあるが、なぜ「その程度の成熟で足りる」のですか。その説明として最も適当なものを次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 大人になって精神的に成熟することが求められるのであり、大人になる前に成熟することは求められないから。
イ 精神的に成熟するには長い年月が必要であり、若者に精神的成熟を求めるのは、もともと無理な話であるから。
ウ 今の若者はやく精神的に成熟する傾向にあり、十八歳なら大人としての精神的成熟は十分達成しているから。
エ 精神的に成熟することが大切なのではなく、成長したいと思う気持ちの方が大人として求められることだから。

問四 傍線部 2 「そう答えるものなのです」とあるが、どのように「答える」のですか。本文中から抜き出して答えなさい。

問五 傍線部 3 「そうとは気づかないものなのです」とあるが、どういうことに「気づかない」のですか。解答欄に合うように本文中から十五字以上二十字以内で抜き出して答えなさい。

問六 傍線部 4 「不安定性」とは、人間のどのような性質を述べていますか。本文中の語句を用いて、二十五字以上三十字以内で答えなさい。

問七 傍線部 5 「本当にそうでしょうか？」とあるが、「そう」が指している箇所を波線部ア～エから一つ選び、記号で答えなさい。

問八 傍線部 6 「人間はポリスの動物だ」とは、どういうことですか。本文中から四十字以内で探し、最初と最後の五字ずつを抜き出して答えなさい。

問九 空欄 7 にあてはまる言葉を、本文中から抜き出して答えなさい。

問十 筆者の主張と同じものを次の中から二つ選び、記号で答えなさい。

- ア 人間には感情があるために、何歳になっても時に怒ったり落ち込んだりするが、程度を超えないように大人としてのふるまいを忘れないように常に心がけなければならない。
- イ 生きていると自分の思い通りにならないこともあるので、ある程度精神的に不安定になってしまふことはしかたがないのだと覚悟することが、大人になるということである。
- ウ 精神的に成熟するには時間がかかるが、意識して大人になろうとすることで精神的成熟を達成することができるから、はやく成熟しようとして意識することが大切なのである。
- エ 大人になった際に精神的に成熟しているには、どのように成長してきたかが問われることになるので、成人するまでに感情をコントロールできるようにする必要がある。
- オ 相手やあるいは集団との関係によって感情が不安定になったら、距離をとって冷静になるなど、他者との距離をうまくとることができるのが、大人の生き方である。

三

次の文章は、鎌倉幕府の執権であった北条時頼（本文中では「相模守時頼」）の母である松下禅尼が、時頼を自分の屋敷へ招待する準備をしている話です。この文章を読んで、後の問いに答えなさい。なお、句読点は全て一字に数えます。

*1
さがみのかみときより

相模守時頼の母は、松下禅尼とぞ申しける。守を入れ

*2
ぜんに

相模守の北条時頼の母は

守をこ招待

申さるる事ありけるに、すすけたる明かり障子のやぶれ
申し上げることがあったときに
*3
しょうじ
破れたところ

ばかりを、禅尼手づから、小刀して切りまはしつつ張られ
だけ
自分の手で
あちこちの紙を切つて（破れにお張りに

ければ、兄の城介義景、その日のけいめいして候ひけるが、
なったので（尼の兄の
世話役を務めてそばに控えていたが

I *4
「給はりて、なにがし男に張らせ候はん。さやうの事に
それはいただいて
張らせましょう
そのようなことに

心得たる者に候ふ」と申されければ、その男、尼が細工に
II
心得のある者です

よもまさり侍らじ」とて、なほ一間づつ張られけるを、
まさかまさってはいないでしょう
やはり一棹ずつ

義景、「皆を張りかへ候はんは、はるかたやすく候ふべし、
全部を張り替えますほうが

まだらに候ふも見苦しくや」とかさねて申されれば、
まだらになっておりますも見苦しくくないですか
*1
ぜんに

III
「尼も、後はさはさはと張りかへんと思へども、今日ばかり
後にはさっぱりと
張り替えようと
思っけれど

は、わざとかくてあるべきなり。物は破れたる所ばかりを
こうしておくのがよいのだ
壊れた所だけを

修理して用ゐる事ぞと、若き人に見ならはせて、
しゆり
B
用ゐる事ぞと、若き人に見ならはせて、

心づけんためなり」と申されける、いとありがたかりけり。
気づかせようとするためだ
大変めつたにないほどすばらしかった

世を治むる道、2を本とす。女性なれども、聖人の
もと
基本とする
（禅尼の心は）
によしやう

心にかよへり。天下を保つ程の人を、子にて持たれける、
通じている
天下を治める

3
誠に、ただ人にはあらざりけるとぞ。

並みの人ではなかったということである

（兼好『徒然草』第百八十四段）

《注》

- * 1 相模守時頼 … 鎌倉幕府の第五代執権、北条時頼のこと。
「相模」は今の神奈川県の一部で、鎌倉幕府が置かれた地。
- * 2 禅尼 … 仏門に帰依した女性。尼僧。
- * 3 明かり障子 … 木枠に紙を貼って空間を仕切る建具。下図参照。
- * 4 なにがし男 … 人物の名前がはっきりわからないときの言い方。ここでは家来のだれかのこと。

問一 波線部 A 「切りまはし」、B 「用ゐる」の読みをすべてひらがな（現代仮名遣い）で書きなさい。

問二 文中の会話文 **I** ～ **III** は、それぞれ誰のせりふですか。組み合わせとして適当なものを次から一つ選び、記号で答えなさい。

- | | | | |
|---|------|----------|-----------|
| ア | I 禅尼 | II なにがし男 | III 義景 |
| イ | I 義景 | II 禅尼 | III 禅尼 |
| ウ | I 義景 | II なにがし男 | III なにがし男 |
| エ | I 禅尼 | II 義景 | III 禅尼 |

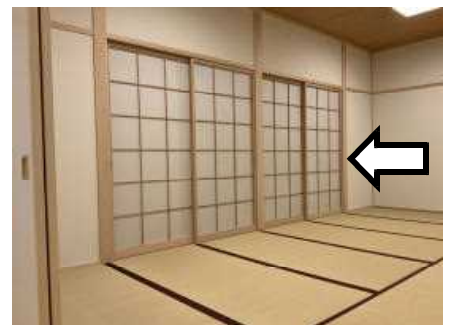
問三 傍線部 1 「かさねて申されければ」とあるように、義景は禅尼をなんとかして説得しようとしています。

(1) 義景がやめてほしいと思っている禅尼の行動を、本文中から四十五字以内で探し、最初の五字を抜き出して答えなさい。

(2) (1)で答えた禅尼の行動の代わりに義景が提案したことを、現代の言葉で二十字以上三十字以内で説明しなさい。

問四 空欄 **2** に入る最も適当な語を次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 儉約 イ 謙虚 ウ 親切 エ 丁寧



問五 傍線部 3 「誠に、ただ人にはあらざりけるとぞ」は、作者の感想です。作者はどんなことに感心しているのか、次のようにまとめました。

空欄

I

く

IV

に入る言葉を、あとの条件に従って答えなさい。

I

は、

II

を理解しており、

III

に

IV

と伝えようとしたこと。

条件

I

は、本文から五字以内で抜き出して答える。

II

は、本文から五字以上十字以内で抜き出して答える。

III

は、十字以上十五字以内で現代の言葉で答える。

IV

は、二十字以上二十五字以内で現代の言葉で答える。

国語 解答用紙

一

問一

A

つて

B

C

やかに

D

E

問二

a

b

c

問三

I

II

III

問四

問五

(1)

(2)

問六

問七

問八

問九

1

2

3

4

二

問一

a

b

問二

A

B

問三

問四

問五

こと。

問六

問七

問八

問九

問十

三

問一

A

B

問二

問三

(1)

(2)

問四

問五

I

II

III

IV

受験番号